看護婦の勤務表作成支援システムに関する研究

○嶋田葉子 池上敦子 大倉元宏 (成蹊大学)

A study on a nurse scheduling support system

○Yoko SHIMADA, Atsuko IKEGAMI, Motohiro OHKURA (Seikei University)

現在、看護婦勤務表は、婦長や主任が手書きの表を利用して作成するのが一般的である。しかしながら、作成には相当な時間を要し、プライベートな時間まで費やしている人も多い。さらに勤務表は、看護婦の生活や収入に関わる重要なものであるため、作成者にとっては非常に気を遣う業務となっている。そのため、コンピュータによる支援システムの開発が以前から強く要望されてきている。支援システムには、スケジューリングの部分も含めてすべてコンピュータにまかせる全自動タイプのものから、スケジューリングの部分は人間が受け持ち、各看護婦の勤務日数や各日の勤務者数などの計算機能のみをコンピュータにまかせる表計算タイプのものまで様々なレベルが考えられる。

本研究では、表計算タイプのものに注目した。この背景として、全自動タイプのシステムにおいてはすべての希望を満たすスケジュール作成が技術的にまだ難しいこと、また、現場からも、「表計算的なシステムでよいから使いやすいものが早くほしい」という声が多いことがあげられる。そこで実際にユーザーに使ってもらえるシステムの要件を明らかにするために、ある大学病院に勤務する主任看護婦を対象にして勤務表作成に関わるタスク分析を行った。その結果、計算機能以外にも、コンピュータで比較的簡単に支援できる要素が数多くあることがわかった。

課業分析による看護業務の分類とその特性

○小澤幸夫 北尾誠英 上野俊夫 (神奈川大学)

A Classification and Peculiarity of Nursing service through Job analysis

Yukio Ozawa, Masumi Kitao, Toshio Ueno (Kanagawa University)

1. はじめに

近年、病院においても患者の満足度(CS)を向上させることが重要な課題となっている。これには、医師はもちろんであるが、患者と接する機会が最も多い看護婦が行う「看護の質」を向上させることが必要になる。そのため、本研究では「看護の質」の評価指標を作成するために、各看護業務の特性を明らかにすることを目的とする。

2. 方法

①看護業務(TNS分類を参考に49の業務に分類)の課業分析を行い、各々の業務特性を明らかにする。②クラスター分析により看護業務の分類を行う。③看護婦の個人評価(2病院:各10名)を行い、各業務の必要能力に対する達成度を求め、各クラスターの特徴を明らかにする。

3. 結果

課業分析は、必要な知識の程度、責任の度合い、熟練に要する期間、判断を要する項目の数の4項目によって行い、その結果をクラスター分析し、6つのクラスターに分類することが出来た。また、看護婦の個人評価から得られた達成度を、看護婦の経験年数、6つのクラスターごとに分類した結果、①各クラスターとも経験年数を増すごとに達成度が高くなり、②クラスター間では、経験年数にかかわらず達成度に一定の順序が見られた。

4. 結論

以上の結果から、看護の質を評価する指標を作成する基礎資料を得ることが出来た。また、看護婦の能力向上のための教育順序を明らかにすることが出来た。